

行政視察報告書

委員会名	建設産業委員会
派遣委員	委員長 川辺 隆 副委員長 安東 鉄男 委員 河野 巧 委員 匹田久美子 委員 武生 博明 委員 牧 宣雄
日程	令和7年10月17日(金) 13:30~15:30
視察先	茨城県常陸太田市
調査項目	道の駅ひたちおおた及び産品開発について

1. 調査目的

常陸秋そばやぶどうなどの果物、地酒、新鮮な野菜、加工品など、常陸太田市が誇る取り扱い、同市の新たな魅力発信基地として、平成28年に整備された「道の駅ひたちおおた」について、事業内容及び経営状況等及び、常陸太田市内で生産された農林水産物やそれらを使用した加工品の中から、特に優れているものを、常陸太田市特産品推進協議会において認証する「常陸太田市認証特産品」等による常陸太田市における産品開発などについて、調査研究を行う。

2. 調査内容

(1) 視察先の概要

常陸太田市は、人口約4万4,000人、面積371.99km²の茨城県北東部にある市です。江戸時代には、水戸徳川家2代目藩主徳川光圀公（水戸黄門）が晩年を過ごした西山荘や水戸徳川家歴代藩主の墓所である瑞龍山などに代表されるように水戸藩領地として発展し、明治時代には郡役所の設置や棚倉街道の商業中心都市として繁栄をしてきました。

白杵市とは、豊後国白杵の姉妹「つゆ」と「とき」が、青蓮寺で介抱されていた父を、様々な苦難を乗り越え、約300里（約1,200メートル）を迎えにきた真実の物語である「二孝女物語」の持つ縁を背景に、平成27年10月10日に姉妹都市の提携を結び、令和7年度は提携10周年を迎える交流の深い市です。

(2) 調査結果

道の駅ひたちおおたは、基幹産業である農林畜産業の振興と、地域資源（自然・歴史・食・地域文化等）を活かした交流人口の拡大により、地域産業の振興と地域経済の好循環を生み出すことを目的に、平成28年7月1日に、茨城県内で13番目にオープンした道の駅です。総事業費は、約13.5億円で整備しています。市の最南部、玄関口といえる場所、国道349号線バイパス沿いに立地しています。

施設の機能としては、道の駅ひたちおおたは、①直売所、レストラン・フードコート、加工所などの「常陸太田市の恵みを体感できる空間」、②情報発信コーナーなどの「常陸太田市の魅力を伝える空間」、③体験交流室、体験ほ場、イベント広場、子ども広場などの「人々が

集い、楽しみ、憩い、講習する場」、④災害時の避難所、防災倉庫などの「防災拠点」の4つの機能を持っています。

また、施設の利便性を高めるため、コンビニエンスストア（ファミリーマート）及びバスターミナルも整備していました。

道の駅の整備に当たっては、東日本大震災の影響もあり、整備が一時休止することもありましたが、市長の特命事項として検討を開始して以来、全庁をあげて検討し、市民・関係団体・議員などに適宜説明をしながら、「農業の振興」と「交流人口を増やす」という目的を果たすため、理解を求め整備していました。

道の駅ひたちおおたの運営は、常陸太田産業振興株式会社と市の販売流通対策課が主体となり行っていますが、直売所、物販・情報発信コーナーについては、検討段階から外部委員として参画していたJA常陸と協力し運営しています。運営全体のコーディネーター役は置かず、道の駅の駅長を中心に、施設内の出店者と打合せしながら運営しているとのことでした。開業当初は、体験ほ場やレストランについても直営で行っていましたが、現在は委託やテナント運営に切り替え、より民間の事業者が参画する形になっています。

道の駅ひたちおおたの売り上げ及びレジ通過者は、コロナ禍の令和2年度に一度落ち込みましたが、それ以外は、開業から継続して6億円以上を売り上げ、60万人から80万人程度の来場者で推移しており、令和6年度は過去最高の8億4千万円の売り上げとなっています。駐車場は、225台分整備していますが、周辺に臨時駐車場として使用できる場所がなく、イベント等の開催時には、来場者が駐車できない状態になることが課題となっているとのことです。また、道の駅では、令和7年9月時点で、全体で110人の雇用を産み出しており、地域の雇用創出の一翼を担っています。

さらに、道の駅活用した取り組みとしては、遠方の生産者の野菜の集荷及び陳列業務の出荷支援事業と、都内行の高速バスを利用し、都内卸業者を通してレストラン等への出荷する貨客混載事業を行っています。

産品開発としては、常陸太田市特産品認証制度を設け、年に一度認証する機会を持ち、現在68品目を認証しています。また、新商品の開発や商品のグレードアップなど加工品開発のため、事業費の2分の1、50万円を上限とした補助金を作り支援している状況です。地域の食であるけんちんを活かし、市内の業者が考案した「けんちんまん」を、ファミリーマートが商品化し、先日、北海道から関東で販売されています。

3. 委員会の所感

道の駅ひたちおおたは、国道バイパス沿いでより交通量の多い場所に設置しており、道の駅の設置場所の選定に当たっては、国道沿い等の交通量が多く、人口集積地からの寄り付きが良い場所であることの重要性を実感しました。整備に当たっては、多額の事業費が見込まれるため、市民・関係団体・執行部・議会など市全体を巻き込んだ議論を通し、その必要性、目的を明確にすることが重要となり、その目的を達成するための手法として、運営方法、施設規模・構成などを検討する視点が大切であると感じました。

今後、臼杵市で整備を検討する場合、有機農業の取り組みや特産品のカボス、高糖度かんしょ「甘太くん」などをより活かすことができるようスイーツなどの産品開発を推進しながら、JA等の関係団体と連携し、『農業のまち』を実感できることを目的の一つとなり得る様に感じました。

また、設置の目的を検討する際に、防災拠点の機能・設備、コンビニエンスストア、バスターミナルの整備など、平時・災害時の両面で、どのように地域に貢献するかを検討し、より多くのニーズを取り込むため、複合的な施設として整備する視点も必要であると感じました。

4. 視察状況

